

キャリアとキャリア教育

(1) キャリアについて

人は、生涯通して様々な役割（学生、職業人、家族の一員、社会の一員など）を担う。これらの社会的役割の一つひとつを「キャリア」と呼び、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねが重要となる。

キャリアの発達には、実年齢に伴って、成長（5歳程度）、探索（10歳代）、確立（20代前半）、維持（～60代）、衰退・交流（60代以上）の5段階があり、それぞれの段階において、社会での役割、状況的要因、人格的要因がキャリアに影響する。

ここでいう、「様々な役割」とは、例えば、子ども時代には「子ども」という役割、学生時代には「学生」という役割、仕事をするようになれば「職業人」、結婚したならば「夫や妻」、子どもが生まれたならば「親」といったような、人生の役割を指す。それぞれの役割を果たすことで、「自分が担う役割の価値」を得ることができる。例えば、安全、愛情、喜び、興味、自信、お金、権力、名誉、自己実現など有形無形の様々な価値がある。この価値に満足や納得がいくか否かで、役割を果たすことへのモチベーションが左右される。自分が担う役割の価値に満足や納得がないと、「自分と役割との関係」に葛藤が生じ、やりがい（価値）を感じる事ができない。この場合には、仕事を辞めて次を探すという選択肢があるが、今の仕事における「役割の価値」をもう一度見出すという選択肢も重要であり、それが叶えば境は変わり、〈自分〉と〈役割〉との葛藤した関係を緩和できる。

本校では、「自分の役割」を見いだす活動の積み重ねをサポートすることを「キャリア形成支援」と捉えており、専門能力の養成に限らず、入学前の進路探索、学校への適応化、退学防止などのすべてはキャリア形成の支援・生き方の支援に繋がるものと考えている。

(2) キャリア教育について

本校では、「キャリア教育」を社会的に自立するために必要とされる技術、知識、態度、考え方を育み、求められる行動を習慣化させていく教育と捉えている。つまり、一人前に仕事をする「力」を身につけ、職業に就くことを促進する働きかけへの活動を指している。

職業に就いて仕事をする事ができれば、時間的にも経済的にも生涯の大半を過ごすことが可能である。しかし、「ただ過ごせばいい」という考えではなく、人の生涯は、「仕事」という活動の基盤を獲得した上で、自分らしい生き方の実現と社会的役割の遂行、その両方を満たすことが望ましい。この「社会との共生を叶える人の育成」を目標としている。

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」と定義し、キャリア教育は、より良い人生となるように一人ひとりの「キャリア開発」することを目的としている。

本校では、このキャリア教育に対し、入学前を「キャリア形成」時期とし、進路ガイダンスなどを通して、学生が将来の目標を見出す自己発見を促す。在学期間を「キャリア設計」時期とし、「目的を重視した行動」「重要なことを優先した行動」「主体性を重視した行動」、挨拶やマナーの重要性について学び、自己変革を促す。専門的な知識・技術の習得、資格取得だけでなく、チームワーク・コミュニケーション力を養うと同時に社会人となる身構え・気構え・心構えを確立する。卒業後を「キャリア開発」時期とし、同窓会や、卒業教育研究会、滋慶医療経営管理研究センター、滋慶医療科学大学院大学など、卒業生などを対象に生涯教育として様々なプログラムを実施し、プロのスペシャリストとして自己確立を促す。

本校が定めるキャリア教育ロードマップは「教育システムと教育スケジュール」に示す。